

## 当社掲載記事のご紹介



週刊住宅新聞 2013年4月22日

### タイトル

海外投資家と東京に投資 トーセイ・山口誠一郎社長に聞く

### 記事概要

トーセイは3月27日にシンガポール証券取引所(SGX)メインボード(第1部)への上場を果たした。東証上場企業がSGXに二重上場するのは約13年ぶり。株式発行を伴う重複上場では初となる。山口誠一郎社長に上場の狙いと今後の事業展開を聞いた。

—SGX上場の狙いは

「海外投資家の多くはシンガポールを経由してアジアに投資しており、投資家が集まる金融のハブであるシンガポールで存在感を増す狙いがある。東京の不動産の魅力を世界に発信するとともに、新たな組成を含めて東京の不動産を組み入れた不動産ファンド事業を拡大する。もう一つの狙いがNAI・トーセイによる不動産の国際取引だ。商用不動産ブローカレッジ組織・NAIグローバルの東京拠点として、日本に進出するアジア企業に対して不動産を仲介する。上場によって認知度を高めることがビジネス拡大に有効だ」

—シンガポールでの新株発行は

「東証上場企業のSGXへの二重上場には先例があるものの、いずれも上場のみで現地での新株発行、取引はない。当社は約2万9000株の新株を発行する予定だったが、SGX側でのシステム調整が間に合わず延期した。上場日から3ヵ月後に株式の募集が出来ることから、しかるべきタイミングで発行する。」

—上場で苦労した点を

「両取引所の規程だけでなく両国の法制度を含めた調整が必要だった。経験者は存在しないため、東京とシンガポールの双方の証券、法律、会計の専門家と社内10人で約40人のチームを作り、チーム発足から2年間かけて準備を進めた。SGXにおける東証との二重上場のルール作りであり、多くの知恵と手間が必要だった。SGXでは日本企業の誘致を進めており、苦労はしたが意義のあることだ」

—国際事業の今後の展開を

「ファンド事業は約3000億円の受託資産残高のうち、半分が海外からのものだ。海外からの投資を呼び込んで中長期的には5000億円を目指している。中長期的には新興国での不動産開発、再生を検討する。新興国の高い成長を取り込むもので、まずは1～2年間かけてマーケティングからはじめ、進出国や手法を検討する」

※当社掲載記事のご紹介は、当社をご紹介いただいた記事の掲載内容を要約したものです。  
情報源となる記事の一切は、トーセイ株式会社が作成したものではありません。

トーセイ株式会社 経営企画部

東京都港区虎ノ門4丁目2番3号 虎ノ門トーセイビル

Tel 03-3435-2864 Fax 03-3435-2866

URL:<http://www.toseicorp.co.jp> Mail:pr-tosei@toseicorp.co.jp